

楠の子



佐賀県立中原特別支援学校「学校新聞」

第 4 号

令和3年 10 月 13 日発行(総務・広報部)

「和太鼓との出会い」 分校舎教頭 石井大輔

誰かに「専門の教科は何ですか？」と聞かれたら、「和太鼓です。」と答えて良いぐらいたくさん和太鼓の指導をしてきました。私が和太鼓と出会ったのは今から30年ほど前、ろう学校に勤務している時でした。聴覚に障害があっても和太鼓の音や振動なら感じる事ができるのです。ろう学校の子どもたちに和太鼓の指導をするために、私を含めた若手職員数名が和太鼓の練習に励むようになりました。そして、最初はろう学校の子どもたちに指導をするために始めた和太鼓でしたが、その後勤務したほぼ全ての特別支援学校で和太鼓指導をすることになりました。

ろう学校の次に勤務した中原養護学校(平成8年当時)は、当時病弱教育専門の養護学校で、ぜんそくや肥満、アトピー性皮膚炎等慢性疾患の小学部から中学部までの子どもたちが在籍していました。ただ、病気の発症に心に関係している「心身症」の子どもが少なくなく、治療と同時に心を元気にすることも大事なことでした。この心を元気にすることに「和太鼓活動」はとても適していたのです。私は、小学部所属でしたが中学部の生徒にも指導に行くようになり、学校全体で和太鼓活動に取り組むようになりました。子どもたちの技量が上がると、東佐賀病院や近隣の高齢者施設、町役場新庁舎落成式などで演奏を披露するようになりました。その経験は子どもたちに大きな自信をつけることにつながりました。また、他校の子どもたちに和太鼓を指導することもありましたが、その時は中原の子どもたちが模範演技をやってみせたり、アドバイスをしたりしていました。このことも中原の子どもたちを大いに元気づけたでしょう。

この度、14年ぶりに中原特別支援学校本校に帰ってきたわけですが、体育館からドドーンと和太鼓の音が聞こえてきますと、当時のことを思い出し和太鼓活動が今でも続いていることをとてもうれしく思います。

和太鼓との出会いは、私の教員人生をととても豊かなものにしてくれたと思います。

「ますます元気です！」 本校舎小学部

C3年生は、9月は体育の学習に励みました。ボールを蹴る、ボールを投げ入れる、足元に注意してラダーを歩く、ゴムをまたぐ等、時間いっぱい体を動かしました。少しずつ一人でできるようになってきました。F3年生は、夏休みの思い出を発表しました。特に楽しかったところでこっと笑顔になりました。上手に発表ができました。



「A課程合同学習」 本校舎中学部A課程

9月15日（水）から10月6日（水）までの総合的な学習の時間、「調べて・話して・考えよう～みんなで楽しめるスポーツとは～」というテーマで、中学部A課程1～3年生が2つのグループに分かれて、調べ学習をしました。それぞれ「モルック」と「グランドゴルフ」を選び、それらのいいところや、実施する際のルールや工夫をパワーポイントでまとめ、互いにプレゼンテーションをしました。学習を重ねるうちに他学年の生徒にも慣れ、仲良く活動することができました。



「オンライン交流会の実施！！」 本校舎高等部C課程

コロナ禍の影響により、学年を超えた活動が制限されていますが、オンラインを活用した学年交流を実施しました。電子黒板同士をTeamsというサービスを利用してオンラインでつなぎ、イントロクイズを行いました。生徒は初めての経験ということもあり、大きく盛り上がることができました！！暗いニュースが多い今日ですが、明るいニュースを一つでも多く報告できるように、今後も生徒と一緒に教育活動を工夫していきたいと思えます。



「元気いっぱい体育祭！」 分校舎

東佐賀病院内で、病棟ごとにデイルームで体育祭を開催しました。ダンスや応援合戦では、一人一人が作ったポンポンやうちわを使って楽しく活動できました。応用走では、プールに見立てた青色のテープの中をくぐってから2つのコーンの間を通り、最後に2段に積まれた箱を倒してゴールしました。玉入れでは、それぞれが得意な方法で1分間かごに玉を入れました。みんなとても良い表情で、元気いっぱい頑張りました。



「運動の秋、製作の秋！」 鳥栖田代分校

小学部は、チーム対抗オリンピックでトンネルをくぐって身体を存分に動かして楽しんだり、ミシンやアイロンを使って自分だけのすてきなオリジナル巾着を製作したりしました。中学部は、分校の職員や田代小学校の先生に向けて作業製品の販売会を行いました。一生懸命作った製品を販売できて生徒も嬉しそうでした。

